

神経疾患における分子メカニズムの解明

七浦 仁紀

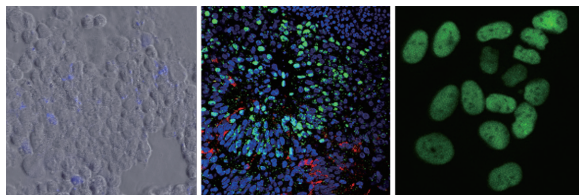
Hitoki Nanaura

脳神経内科学／助教

- **キーワード** 神経変性疾患、遺伝性神経疾患
- **対象疾患** 筋萎縮性側索硬化症、前頭側頭型認知症、パーキンソン病、レビー小体型認知症
- **研究フェーズ** 基礎
- **モダリティ** 細胞生物学的手法、分子生物学的手法

シーズ概要

神経疾患は高齢者で発症するものが多く、近年患者数は増加傾向である。パーキンソン病や前頭側頭型認知症、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病は、未だ根本的な治療法はなく、病態解明および治療薬開発が望まれる。これらの疾患群では、細胞内にタンパク質の凝集体が蓄積するという共通の現象がみられる。近年、液-液相分離という現象と神経変性疾患との関連に関する知見が蓄積されてきている(文献1.)。我々は、細胞生物学的手法を用いた評価系の開発や、分子生物学的手法による病態メカニズム解析を通じて、これら難治性神経疾患の病態解明および治療法開発を目指した研究を行っている。



研究成果の応用可能性

- ・ 遺伝性疾患の病態解析、評価系の開発
- ・ 神経疾患の診断マーカー、治療薬候補の探索

Appeal Point

アピールポイント

産学連携により神経疾患研究を推進していきたいと思えます。

関連文献／特許

- 1.Nanaura H, Kawamukai H, Fujiwara A, et al. C9orf72-derived arginine-rich poly-dipeptides impede phase modifiers. Nat Commun 2021;12: 5301.